

令和8年度 調布市立第八中学校 学校経営計画（学校長 馬場 誠）

学校の教育目標	
○自ら考え行動する生徒 ○思いやりのある心豊かな生徒 ○心身ともにたくましい生徒	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
心理的安全性が育む Agency 地域と共に未来を拓く	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	誰もが自分の意見をのびのびと言える環境を実現し、その基盤の上に Agency (自分で考え、自分で決め、社会変革に向けて自分が動き出す) を高める取組を行う。また、地域資源を有効活用し、生徒たちの社会性を育むと同時に、学校を核とした地域社会の活性化を実現する。
中期的な経営目標	
<ol style="list-style-type: none"> ① 心理的安全性を基礎に、生徒一人一人の Agency (主体性) を育む。 ② 全ての生徒に満足度の高い授業を行い、自立した学習者として主体的に学習する意欲と態度を育成する。 ③ 健康を保持増進し、体力を向上させようとする意欲や生活習慣を身に付けさせる。 ④ 特別支援教育に全校で取り組むとともに、不登校生徒へ寄り添い社会的自立に向けた支援を行う。 ⑤ 地域の力をさらに効果的に活用した学校づくりを推進するとともに、9年間の成長を見通した小中連携教育を充実させる。 	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
① 豊かな心(徳)	② 確かな学力(知)	③ 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
①学校を心理的安全性が高く居心地の良い場にし、生徒が自分らしさを発揮できるようにする。	①特別な支援を必要とする生徒を含む全ての生徒に「わかった」「できた」と実感させる授業を行う。	①自分の健康状態に関心をもたせ、健康を保持増進するための実践力を育む。
②自分と他者を大切にすることを育てる。	②学ぶ意欲を向上させ、自立した学習者を目指して主体的に学習する態度を育成する。	②より豊かで充実した生活を送るための成長・発達に必要な体力を高める意欲や習慣を育てる。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
①「毎日学校へ行くのは楽しい」(目標 90%以上) 「子どもは学校での人間関係がうまくできている(保護者)」(目標 85%以上)	①「『わかった』『できた』と実感しながら授業を受けている」(目標 85%以上) 「先生たちは分かりやすい授業に努めている。(保護者)」(目標 85%以上)	①「規則正しい生活を心がけ、健康を意識してすごしている」(目標 80%以上) 「学校は、生徒の健康に配慮し病気やケガ等に適切に対応している。(保護者)」(目標 90%以上)
②「私は、クラスで安心して自分の意見を言え、自分らしさを出せる」(目標 80%以上) 「私は、人の気持ちを考え、誰かが困っているときは助けてあげたいと思う」(目標 90%以上)	②「学習するときは、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる」(目標 90%以上) 「私は、家庭学習の習慣が身についている」(目標 70%以上)	②「私は、体育の授業、部活動、その他の活動を通して、体力を高めようとしている」84.7%(目標 80%以上)

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
④ 特別支援教育や不登校支援の充実	⑤ 小学校・保護者・地域との連携	
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	
①支援を必要とする生徒を含む全ての生徒が認め合い支え合える生徒集団を作る。	①9年間の成長を見通した小中連携の取組を充実させる。	
②不登校生徒それぞれに寄り添い、個に応じた多様な社会的自立に向けて支援を行う。	②地域コーディネーターを中心とした、保護者・地域との協力体制を推進する。	
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	
①「私は、学校では、気軽に話ができる友達がいる」(目標 90%以上) 「悩みや不安の相談にのってくれる先生やカウンセラーがいる」(目標 80%以上)	①「小学生と連携する行事には意識をもって取り組んでいる」(目標 60%)	
②不登校生徒それぞれの個別支援・指導計画を作成する。(作成率 100%)	②「私は、土曜学習部、漢検・英検など、地域と協働して行う取組に積極的に参加している」(目標 60%以上) 地域ボランティアに参加する生徒数、延べ 250名以上を目標とする。	

人材育成・組織運営
○教諭、主任教諭、主幹教諭のそれぞれの職層に応じて「東京都公立学校の校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標」に示された職務を遂行させ、個々の能力開発を図る。
○「デジタルを活用したこれからの学び」の校内研究を進め、自己決定できる授業の実現に向けて全校をあげて取り組む。
○働き方改革の一環として、毎週水曜日はノー部活デー・定時退勤日とし、教員が健全なワークライフバランスを保てるようにする。
○デジタル技術を活用し、校務運営の効率化を図る。